



悶々妄想画像集

～イ○フィニット・ス○ラトス妄想～



「ほう、これだけ薬を打たれてもそんな目が出るとは
なかなか我慢強いな」

「くっ、こんな薬に頼る卑劣な輩に屈したりはしない!」

「ははっ! そうやって強がって強がっていられるのも今のうちぞ、
すぐにも自分から腰を振るようになる」

「ツツ……ウツ……クツツ……」

ばあ
びん
びん

42



「すげ〜気持ちいいぜ、先生さんよ！」

「周りに女しかいなくて男目照りだったんだろ」

「あっ……んっ……そ、そんなことありません……」

「久しぶりのチ○コだろ、たっぷり味わいな！」

「ああっ……あん・ダメツ、あああっ」

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

「ハア、ハア、ラウラちゃんは小さくて可愛いでよね
僕ちゃんのもろ好みでひゅ、デュフフ」

「何だ貴様はー今すぐ離れるー」

「ハア、ハア、ラウラちゃんの中は狭くて気持ちがいー」

「くっ、重くて……離れっ……」



「ハア、ハア、ラウラちゃんのアナル気持ちよすぎでしゅー」
「あつ……もう……やめっ……」

「もう限界でしゅー！ラウラちゃんの直腸に中出しするわっ」
「……アアッ……」

はあ
はあ
はあ

はあ

はあ
はあ
はあ

はあ
はあ
はあ

はあ
はあ
はあ



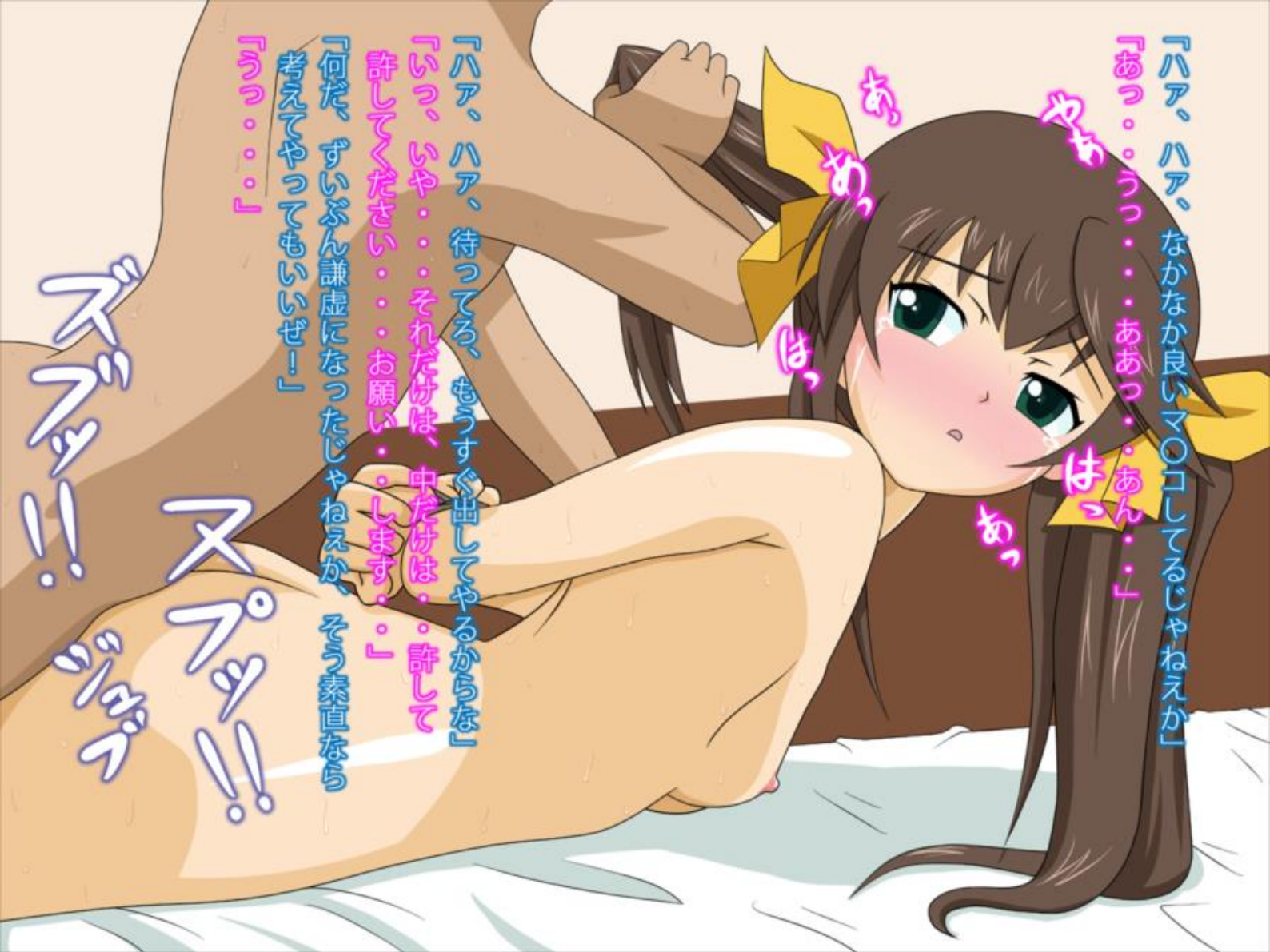


「ごっ、こんなことして、ゆ、許さないんだから！」
「ああ？てめえみてえな小娘に許しなんか乞わねえよ！」

「ひっ、やめっ……うっ……」
「お前は大人しくケツを突き出してりゃいいんだよ！」
「いやっ……いやああ……」

ズブツ!!
スプッ!!

はぁ
はぁ
はぁ
はぁ



「ハア、ハア、なかなか良いマ〇コしてるじゃねえか」

「あっ……うっ……ああっ……あん……」

「やあ はっ はっ はっ」

「あっ」

「あ」

「あ」

「は」

「ハア、ハア、待ってる、もうすぐ出してやるからな」

「いっ、いや……それだけは、中だけは……許して」

「許してください……お願い……します……」

「何だ、ずいぶん謙虚になったじゃねえか、そう素直なら」

「考えてやってもいいぜー」

「うっ……」

ズブズブ!!

ズブズブ!!

「こんな事をして唯で済むと思いませんのっ！」

「威勢がいいな！どこぞのお嬢様が知らねえが、たっぷり突っ込んでやるからな！」

「このっ、その粗末な物を早く抜きなさい！」

「はあ、はあ、性格がキツイとマ○コもキツイな、最高の締めだぜ！」

「ッ、ひ、人の話を……」

「あせんなよ、思う存分抜き差ししてやるからよ！」





「大分感じてきてるみたいだが、さっきまでの威勢はどうしたお嬢様？」

「はっ・・・んっ・・・、か、感じてなどいませんー！」

「そっだよな、名家のお嬢様がレイプされて感じる訳はないよなー！」

「ふっ・・・やつ・・・あっ・・・んっ」

ほっ
ほっ
ほっ

はっ

はっ

スプ

スプ

スプ

「ぐっ、出るー出すぞーお嬢様マ○」と中出したー」
「やっ、やめっ、中だ。いやああああ。。。。。。」

はあ

はあ

はあ

は

「はあ、はあ、たっぷり出してやったぞお嬢様」
「うっ。。。。いや。。。。こんな。。。。。」



はあー!!
はあー!!
はあー!!

「へへへ、睡眠薬を飲んでグッスリだからやりたい放題だぜ」

「スー、スー！」



「強力な睡眠薬だから、三時間は何をしても起きないからな、たっぷり楽しませてもらうぜ、シャルロットちゃんよー」



「んんんんん」

「寝ても感じてるのからシャルロットちゃん」

「はあ、はあ、良いぜー睡、睡、睡」

♡



「んんんんんん」

「はあ、はあ、気持ち良いぜ。ちゃんと穴の奥まで
俺のチ○コで洗ってやるからな」

（しかし、こんな美少女と一緒に風呂に入っても
手を出さないなんて織斑って野郎はホモなんじゃねえか？
ま、野郎と兄弟にならずに頂けたんだから良いか）

「良いぞー夏、その調子で激しく突くんのだ」

「ハアハア、千冬姉えのアナル気持ちよすぎてすぐ曲ったー」

スポッ

ズボッ!!

スポッ

ズボッ!!

「アナルセックスなら妊娠の心配は無いからな、好きなだけ申に出していいぞー夏」

「ハア、ハア、千冬姉え、千冬姉ええー」



